

平成28年度 学校評価総括表

教 育 目 標		人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性を備えた生徒の育成を目指す。 ものづくりとビジネスの実習、演習を通して、技術を身に付け社会に貢献できる生徒の育成を目指す。					総合評価	
運 営 方 針		「ものづくりとビジネスの出会いを通して人作り」をスローガンに、高等学校普通教育並びに工業科・商業科等に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけさせて、産業及び文化の進展に貢献し得る豊かな人間性と自立的な態度を育成するとともに、清新な気風に満ちた魅力ある校風の樹立をめざす。						
昨年度の成果と課題		本 年 度 の 重 点 目 標		具 体 的 目 標				
ここ数年継続しての取り組みの結果、学習面や生徒指導の面においても一定の成果があらわれ、定着してきたと思われる。 今後は、生徒自身に将来の進路を見据えさせることに重点を置き、生徒個々が主体的に自己実現に向けて取り組めるよう、教育活動のより一層の進展を図りたい。		(1) 自信と誇りを持ち、地域や県全体を活性化させる原動力となる人材を育てる。		各学年・科別のシラバスを活用し、基礎学力の定着を図る。 自己の目標を明確にし、その達成に向けた取組の一貫として資格や検定の受験を奨励し、合格者増加を目指す。			B	
		(2) 困難にも打ち勝つ強い体力と精神力を養う。		体力テストの取組を強化し、体力の重要性に関する意識付けを行う。 体育の授業を通して体力の向上を図る。 部活動への加入率を向上させ、その活性化を図る。				
		(3) 産業人の卵として必要な資質を磨き、ルールやマナーを守り、感謝の心を忘れない生徒を育成する。		挨拶運動や奉仕活動を実施することにより、規範意識の向上を図る。 教育活動を通じて、勤労観、職業観を育む。				
		(4) 学校力の向上と家庭教育力の向上を図る。		学校としての組織力の強化と教職員の指導力を向上させるため、組織の見直しや教職員の研修会参加を促す。 家庭訪問や教育相談で家庭との連携を図る。				
評価項目	具体的目標(評価小項目)	具 体 的 方 策 ・ 評 価 指 標		自己評価結果	成 果 と 課 題 ( 評 価 結 果 の 分 析 )	改 善 方 策 等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
学習指導	わかる授業・学力をつける授業の実践	各教員が当該教科・科目のシラバスを作成するとともに、これを用いて年度当初に生徒へ学習の目的や学習内容、評価方法を周知し、2、3学期当初にもあらためてこれらを確認する。 シラバスをもとにして、年間2回程度研究授業を実施し、分かりやすい授業についての研修を行う。 機械・ビジネスの専門教科で、シラバスを活用して、指導方法や教材の工夫、学習評価の把握の仕方などについて情報交換を行い、指導力の向上に努める。普通教科間でも同様の取り組みを進める。		B	B	年度当初のシラバス配布と生徒への説明は定着した。また、お互いの授業を観察し合う研修も行った。次年度は、生徒向けでも職員研修へ向けても具体的な有効活用方法を示して実践する必要がある。 各科とも、具体的な取り組みを行うことができなかった。評価と指導の一体化(観点別評価)へ向けた取り組みの必要性について職員の共通理解を深めることが必要である。 アンケート方法の見直しを検討したが従前の方法で実施した。アンケート結果を活かして授業改善にどうつなげるかについて職員の共通理解を得ることが必要である。	普段の授業で繰り返しシラバスを見せる事で学習意欲を持続させることにつながるような中身を研究したり、職員間で互いのシラバスを交換して授業改善に結びつける研修を行う等、より具体的な取り組みを行う。そのためにより一層「評価と指導の一体化(観点別評価)」についての理解を深める研修を行う。	
		生徒による授業評価アンケートのやり方を見直して実施し、その結果を授業改善に活かす。		B				
		中間考査後の成績を全職員で確認し、個々の生徒の学習状況を確認する。 常に学習の必要性を訴えかけるとともに、特に1、2学期末の成績不振者に対する指導において、普段の学習が成績に反映されることを十分に理解させながら指導する。 学習意欲をもった生徒のニーズに応えるために、進捗度に応じた課題等を用意し、始業前や放課後なども利用して指導に当たる。		B C C				
資格・検定の取得に対する積極的な支援	取得可能な検定や受験可能な資格の情報を広く生徒に提供し、資格取得への関心を高める。 生徒の実力を考慮しつつ、取得することによって将来役に立つ資格や検定を絞り込み、重点的に取り組ませる。これらの資格や検定については、より多くの生徒が受験するように働きかける。 機械科、ビジネス科で取り組んでいる資格や検定を全職員で支援する。			B	B	例年通り会議を持って確認し合った。 成績不振者への指導では、1学期の終業式後の教務部からの連絡で生徒には説明したつもりであったが、十分伝わっていないかった。別の方法を検討する必要がある。 個々の教員で対応してもらっているが、教員による差が大きいのが実情である。学校全体の取り組みにするためには職員全体の共通認識を得て行う必要がある。 機械科・ビジネス科の資格や検定の取得を勧める取組については定着してきたが、生徒数の減少の影響もあり受験者の減少は否めない。今後より積極的に資格等の取得を勧めることや、レベルの高い資格等へのチャレンジ、さらには専門教科以外の資格等へのチャレンジ等も検討すべき時期が来ている。	今年度の取り組みを継続しながら、よりレベルの高い資格等にチャレンジさせることの可能性について検討する。	
				B				
				C				
生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻・欠席防止の徹底。(昨年度の20%減)</li> <li>・挨拶の励行・時間厳守・自己管理の徹底。</li> <li>・各集会におけるマナー・通学時のマナーの啓発。</li> <li>・交通安全教室(巡視計画)等における登下校時の安全確保の取り組み。</li> <li>・月1回生徒配布プリントによるたばこの害に関する健康意識の取り組み。</li> <li>・個別面談や家庭訪問での生徒の状況把握と教職員の共通理解を図る。</li> </ul>		B	B	欠席については減少したが遅刻については減少出来なかった。 生徒は少しではあるが挨拶する習慣が定着するようになってきた。 集会時における態度、通学時のマナーにおいてはほぼ達成できた。 巡視計画では年間を通して実施したが靴の盗難が見られた。 月一回「たばこの話」喫煙における健康被害を中心に指導を行った。 家庭訪問で得た情報を生徒の状況として資料作成し情報共有した。	4年間の指導を通して学校のルール、時間厳守、社会のきまりをしっかりと身につけさせたい。又、日常生活の関わりの中で生徒の変化を観察し継続して指導していかなければならない。	引き続き自転車の安全指導をお願いしたい。 卒業式の指導がしっかり出来ていた。
	生徒会活動の活性化やクラブ活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会役員の主体的活動や生徒会行事の活性化を図る。</li> <li>・クラブ部員の増加、加入率昨年度より(15%)以上。</li> <li>・部活動の勧誘を積極的に行う。</li> </ul>		A				

評価項目	具体的目標(評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
人権文化	人権教育 HR 内容の充実	1学期のHRは各学年別にテーマとし、1年「なかま作り」2年「違いを大切に」3年「進路保障の取り組み」4年「社会でより豊かに生きるために」という各テーマで実施する。2学期は高人教のブロック別HR研修として「校内生活体験作文発表」を実施する。 人権教育HRのテーマとして多様な人権課題に対応し、生徒が人権の視点を身につけ、人権感覚を向上させるために職員研修を検討する。	A	A	1学期のHRは予定通り各学年別のテーマで実施できた。2学期は高人教ブロック別HR研修として校内生活体験発表会を実施し、さらに、全学年統一テーマとして「障害者理解」に関するHRを実施し、ノーマライゼーションの視点に目を向けた。今後も、人権課題を個別テーマで設定してHRを検討する。	各種人権課題について職員研修の実施を充実させることを通じて人権課題の認識を広げることでHR実施内容を充実させる。		
	校内生活体験作文と奈良県生活体験発表会にむけた取り組みの充実	高人教ブロック別HR研修として「校内生活体験発表会」を実施し、生徒の発表を通じて発表内容や会の運営法などの意見交換を通じて、今後の生活体験作文への取り組みの充実を図る。 生徒の作文指導を充実させることで、自身を振り返り、自己実現に向けて意識を高める。	A	A	高人教ブロック別HR研修で実施した校内生活体験発表会では、他校の先生に生徒の思いを知ってもらうことができた。5人の発表となり全員が発表できなかったことへの取り組みが課題である。	生活体験作文指導に加え、あらゆる指導の中で社会意識を高める工夫をする。		
進路指導	進路指導体制の確立	「進路希望調査」や「自己点検シート」等を活用して生徒の実態を認識し、生徒個々に応じた進路指導体制を確立する。	C	C	「基本的な生活習慣」「基礎学力」が身につけていない生徒が多く、4年間の学校生活でどのように指導していくかが課題である。	「人間関係形成」「情報活用」「将来設計」「意思決定」それぞれの能力をいかに向上させるかが課題と言える。学習中や就業中どのようなことが学べるのか、身につくのか、具体的な目標を設定すべきである。また、学校行事		
	4年生の進路決定率向上	より効果的な就職指導を実施し、内定率を高める(必要に応じて企業訪問を実施、応募前職場見学の引率、保護者懇談、学科・面接試験に向けての対策と指導、就職に関わる事務処理等)。 進学については将来の職業選択に繋がるよう、積極的に情報を提供する。また必要に応じて学校訪問を実施し、様々な入試方法の対策を指導する。	A	A	一人あたり二社の応募前職場見学を行った。また、限られた時間の中で効率的な指導ができた。高卒求人は増加傾向にあるが、選考試験(学力・適性検査・面接等)に対応しきれていない。 希望通りの専門学校(看護師、自動車整備士)に合格できた。	や奉仕活動、登・下校時の挨拶などにもキャリア教育の要素があり、一つ一つ確実に実践していくことが重要である。	就職面接で喫煙の有無を質問する企業がある。	
	円滑な奨学金申請事務処理	各種奨学金の円滑な事務処理を行う。	A	A	「奈良県高等学校等奨学金」「奈良県高校生等奨学給付金」の円滑な事務処理ができた。「日本学生支援機構奨学金」の利用者なし。			
	効果的な広報活動	県教育委員会の高校紹介、新聞社発行の学校紹介や本校ホームページ等を通して本校を紹介し、中学生の進路選択の一資料とする。	B	B	「奈良県高等学校等奨学金」「奈良県高校生等奨学給付金」の円滑な事務処理ができた。「日本学生支援機構奨学金」の利用者なし。 県教委学校紹介、新聞社学校紹介、学校案内を通じて本校の進路状況を紹介した。			
環境 保健体育	体力の向上	スポーツテストを通じて、生徒一人一人の運動能力を把握し、課題等を明確にして体育の授業や体育行事を工夫しながら、年齢層に応じた体力の向上に取り組む。	A	A	スポーツテストの参加率は約93%を超え生徒一人一人の運動能力を把握することが出来た。体力向上については体育授業において、準備運動で縄跳びや筋力トレーニング等を取り入れ体力向上を図った。	運動能力の把握は出来たものの全体的に能力的なものは低く、体力向上も含め色々と工夫が必要である。		
	健康の保持増進及び安全教育の充実	定期健康診断や各種検診を計画的に実施し、生徒個人の健康状態を把握させる為にも各検診の受診率90%以上を目指す。また、家庭との連携を密にし、協力を得ながら治療勧告書を発行して効果的に活用する。	A	A	B	定期健康診断及び各種検診の平均受診率は89.4%であった。特に一年生での欠席者が多く見られ昨年に比べ少し受診率が減少し目標を達成出来なかった。	治療勧告書の回収率についても数値目標を出していきたい。	
	環境整備と環境美化への意識の向上	随時、施設の安全点検を行い、環境整備に努める。また、環境美化への意識を高めるために各クラスの環境委員を中心にゴミの分別をはじめ生徒の自主的な清掃活動に取り組ませる体制づくりを行う。	B	B	学校全体の環境美化状況は、HR等での指導により、教室や廊下等のゴミはかなり減ったように感じている。又、ゴミの分別についても生徒の意識が少し高まったように感じる。	まだまだ不十分な面もあるので、引き続き環境美化の意識を高める指導をしていく必要があると感じる。		
機械科	基本的、基礎的な知識・技能の習得 各種検定試験への支援 ものづくりへの興味・関心	座学で学習した内容をしっかり理解して、その内容を実技を通して再確認し作品を加工する手順を学ぶことに評価の対象を置く。またレポートを提出することで実習内容の確認ができ評価を確実にする。 資格取得に意欲的に取り組ませるため、各種検定試験について放課後及び長期休業を利用して支援する。 機械科としてもものづくりの大切さを認識させ、人の役に立つものを製作することに重点を置き評価の基準とする。	A	B	A	座学で学んだ内容を効率よく実習に結び付け、工程を確認しながら理解して作業出来るようになってきた。また、落ち着いた授業態度が身につけてきており、安全かつ意欲的に取り組める生徒が増えてきた。資格検定については、資格取得の大切さを理解し、16名の生徒が夏休みを利用して各種検定を受験した。レポートに関しては特に1年生は書いた経験があまりないので、初め指導するのに時間がかかってしまったが、学年末にはしっかり書く習慣が出来てきた。	引き続き、座学と実習の関連性を高め、効率よく実習に結び付けていきたい。 個々の進路実現に向けて、必要な資格を選択できるようにアドバイスをしていく。	
ビジネス科	授業方法の工夫 各種検定試験(希望者)への継続的支援	視聴覚教材等を活用し、授業方法の工夫改善をおこなう。 各種商業関係の検定試験受験希望者に対し、放課後の補習・部活動を通じて支援する。 商業科教員間の意見交換等を学期に一回以上実施する。	B	B	B	作表問題等の解説のため実物投影機を利用し、生徒が理解しやすいように工夫した。 各種検定試験受験希望者の補習等をおこない、珠算・電卓検定試験で上位級の合格者もあった。 資格取得のために受験生徒を増やしていく取り組みが必要である	引き続き、教育内容の情報交換に取り組むたい。 検定受験に対しては、生徒の意識向上に努め多くの生徒に受験させたい。	